

# 外部接続製品を拡充

## デジタコDTS-C1/C1Dと連携

トランストロン（横浜市港北区）は、ネットワーク型デジタコ「DTS-C1/C1D」と連携する外部接続製品を拡充。これに伴い、クラウド型ネットワーク運行支援サービス「ITP-Web Service」の機能も強化。検知情報を運行管理者へリアルタイムで伝えることが可能にした。

2010年に販売を開始した「DTS-C1/C1D」は現在、約5万台が稼働。販売推進・業務課の酒井健二課長は、「製品としての成熟期を迎え、ユーザーの要望を聞く



酒井課長（左）と清水さん

# トランストロン

中で、さらに使い勝手  
を良くしたいと考え  
た」と今回の連携のね  
らいを説明する。

今回接続が可能に

ら富士通が販売を開始した眠気検知システム「FEELYTHM（ファイリーズム）」とも連携。アダプタを通じて車載器と接続することで、ドライバの眠気の状態を運行管理者へ通知する。販売推進担当の清水真也氏は、「ドライバー自身が気をつけるだけではなく、管理者側から注意を促すことができる」とし、その有効性をアピールする。

また、ジャパン・トゥエンティワンの衝突防止システム「Mobile Eye（モバイルアイ）」とも連携。同製品から得られる前方衝突警報、車間距離警報、車線逸脱警報などの情報が管理者側にも通知される。「衝突防止は非常に注目されている分野。アライアンスを組んで一緒に取り組むことで、一層の安全支援につなげられる」。

温度データ収集機能を持つ製品では、ティアドロイワイヤレスデータロガー「おんどとり」、さらにデンソー、東プレ、菱重コールドチェーンの車載用冷凍機のコントロールパネルとも接続が可能に。「直接、温度情報を取得することで誤差がなくなる」とし、「荷室の配線が不要となるため、工事費用も削減できる」とメリットをアピールする。

また、デルタツーリングの居眠り運転警告装置「スリープバスター」やデンソーウエーブのETCプリンターとの接続も可能になる。

酒井課長は、「ユーザーに当社の製品を継承して使っていただけるよう、そして『使って良かった』と思ってもらえるよう、利便性を良くしていきたい」と話す。